

寄稿

1200年の思いを今に ～がんばろう日本～



高野山真言宗 総本山金剛峯寺
高野山開創1200年記念大法会事務局長

近藤 本淳

まず始めに、東日本大震災でお亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますと共に、被災された皆様にお見舞い申し上げます。一刻も早い被災地復興をお祈りすると共に、弘法大師の御教えに従い、被災地復興に尽力させて頂く所存でございます。

高野山開創 1200 年記念大法会

来る平成 27 年は、弘法大師空海さま（以下、「お大師さま」といいます）が、高野山を開かれて 1200 年目の記念の年に当たります。この年、4 月 2 日から 5 月 21 日までの 50 日間、高野山開創 1200 年記念大法会（一般的には法要）が執り行われます。高野山で例年行われている恒例法会に加えまして、全国各地の高野山真言宗寺院の職衆出仕による法会、真言宗各ご本山職衆出仕の法会、天台宗比叡山延暦寺、曹洞宗大本山永平寺、華嚴宗大本山東大寺などをはじめ、多くの宗派、宗団に高野山ご開創のお喜びの法会を開催いただけるよう呼びかけております。

これに伴いまして、様々な記念事業が高野山は勿論、日本各地で催されます。これらの記念事業については後述させて頂くとして、高野山開創の意義についてお話させていただきます。

高野山開創の意義

まずなぜ、お大師さまが高野山の地を選んだかということですが、当時、高野山を開創するにあたり、お大師さまには大きな二つの目的がありました。

一つ目は、国家の為に一つの寺院を建てること。ここでいう国家とは、生きとし生けるものとその拠りどころである国土、つまり自然の世界を表しています。その人間も含めた自然界の為に祈り願うところとしての寺院建立が一つの目的でした。

二つ目は、僧侶が修行する為の道場を開くこと。つまりは人材育成です。すぐれた僧侶を育てて真言密教の教えを広め、そのことにより人々

の幸せをますことがもう一つの目的でした。

この二つの目的を満たす条件として、当時の都のような場所ではなく、人里離れた奥深い森林や深山の中にある平地が最適でした。これこそほかならぬ高野の地ということになります。

お大師さまが中国の唐から投げられた三鈷杵さんこしよが高野山の伽藍にある松の樹に掛かったという伝説や様々な説話がありますが、お大師さまが高野山の地を選ばれたのは必然であったような気がします。



高野山雲海



【大師絵伝】より 三鈷杵を投げられるお大師さま

弘法大師の御誓願

こういった目的のもと、お大師さまは高野山を開かれました。そして、もう一つ忘れてはならないのが、お大師さまの御誓願ごせいがん（大師の願い）である「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いもつきなん」訳しますと、「自然の世界と、生きとし生けるものと、仏様の悟りの世界が尽きるまで、生きとし生けるものを救いたい、という私の願いは尽きることはありません。」この願いを実現させるために高野山は

開創されたのです。そして、私たちはそういったお大師さまの意志と願いを引き継ぎ、また後世に伝えていく使命があるといえます。

そうすることにより人々が不安や心配から解放され、心が癒され、活力が生まれ、充実感に満ちた日々を持てるようになるのです。平成27年の開創1200年記念大法会の様々な記念事業もそういった思いが込められ、人々が幸せになるために行われます。

高野山開創1200年記念事業

それでは、どういった記念事業が行われるのかお話をさせて頂きたいと思います。

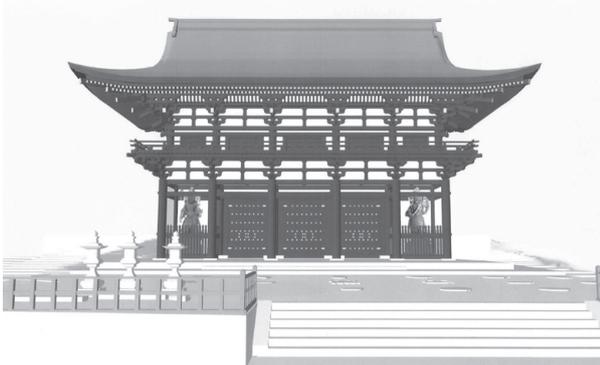
まずは、金剛峯寺、伽藍や奥之院などの聖域の整備事業。例えば、お大師さまが入定にゅうじょう（永遠の瞑想めいそうに入ること）された奥之院御廟ごびょうの屋根替や、奥之院の参道の整備工事等、そして整備事業の要となります伽藍中門再建事業。この伽藍中門再建事業は、高野山の開創にあたり重要な意味を持ちます。というのも先述したように、開創の目的であった寺院建立と修行道場の中心的な役割を担う場所が伽藍であるからです。また、ここには、説話に出てくるお大師さまが中国より投げられた三鈷杵が掛かった松の木「三鈷の松」もあります。



【又統宝簡集】

この伽藍という聖域に対しての入り口が中門であり、また伽藍の結界も意味するのです。実は、今回の中門は約172年ぶりの再建、第八期目にあたり、歴史的にみても非常に重要な意味

を持つ建造物だと言えます。こういった、建築関連の事業も高野山の歴史の護持に繋がり、ひいてはお大師さまの御誓願の実現にも繋がっていくと、私達は信じております。



再建される中門完成予想図(南から)



再建中門素屋根(北から)



大伽藍

また、記念事業には建築関連だけではなく、僧侶による布教活動的な事業も多数企画しております。例えば、「高野山開創 1200 年記念お待ち受け法会」なる大きな法会が各地方で催されます。平成 27 年の高野山での大法会を待ち望み、各地方の寺院と檀信徒の方々が一体となってお大師さまの教えや、開創の意義を広く知ら

しめる為に祈りを捧げます。他にも、お大師さまが高野山を開創する物語を演劇にして僧侶が演じる「高野への道」という企画や、全国の若い僧侶による青年教師会が、写経や阿字観（^{あじかん}瞑想）体験、それに精進料理の提供など高野山を体験できる通称「高野山カフェ」というイベントも行われています。

そして、この高野山開創 1200 年記念のマスコットキャラクター「こうやくん」が全国の様々なイベントに参加をします。こうやくんは、高野ひじり（高野山の魅力を全国の人に伝える仕事）として活躍します。性格は明るく、賢く、しっかり者だけど時にうっかり者、また好きな食べ物は高野豆腐にごま豆腐、といったような今の時代にあわせた PR 活動も取り入れて高野山開創 1200 年記念大法会を盛り上げて行くと共に、檀信徒の方々だけではなく広く世間一般の方々にも知って頂く努力もしています。これらの様な、歴史的、宗教的、文化的な様々な方面から、お大師さまが開創された高野山の 1200 年記念をお祝いすると共にお大師さまの教えを広め、人々の幸せが増すような高野山開創 1200 年記念大法会にしていかなければなりません。

「生かせいのおち～大師のみおしえいまここに～」

表題と冒頭でも述べさせて頂きましたが、この平成 23 年 3 月 11 日におきた東日本大震災によって東日本はもとより、日本中が非常に大きな被害を受けました。

震災以降、「がんばろう日本」といったスローガンをかかげ、被災された方々への支援や亡くなった方々の追悼、また被災地の復興へ向け様々な形で活動が行われています。まさに日本中が協力し合い、世界各国からも協力を頂き、世界中が助け合おうと一つになっています。

そこで、高野山真言宗では、宗団内外に災害義捐金・支援金の協力を呼びかけ、平成 23 年 7 月 1 日現在までに、¥157,004,907 円もの皆様の善意が寄せられ、被災地の地方自治体である

岩手県、宮城県、福島県、釜石市、大崎市、いわき市に寄託いたしました。

お大師さまの御誓願にあったように、生きとし生けるものを救いたいという願いが、今、まさに世界規模で実践されようとしています。平成 27 年高野山開創 1200 年記念大法会のスローガンは、「生かせいのち～大師のみおしえいまここに～」。この苦境の中にある日本が力を合わせ、今の時代を、これからの未来を幸せにするために動いていかなければならない時だと思えます。1200 年もの間引き継がれてきました真言密教とお大師さまの教え、そして、お大師さまの思いを今に生かすべく高野山開創 1200 年記念大法会を執行したいと思います。

最後になりますが、一人一人個々の力というのは微々たるものではありますが、一つの思いのもとに皆が協力し合うと想像以上の大きな力になります。その力をどうか衆生しゅじょうさいど済度、生きとし生けるものを助け、幸せにする方向に向けて発揮できるようご協力をお願いしますと共に、この先の未来が明るいものになるようにお祈り申し上げます。

合掌